

ラジル、キューバ等ができていることを、日本ができないのか。日本国憲法は「個人を国家の上におく」国家観、ナショナリズムを指し示している。「国家を個人の上に置く」国家観でなく、「個人を国家の上に置く」国家観をはくむことができるかどうかが私たちにとって重要な課題である。

### 曖昧な平和観を鍛えよう

「力によらない」平和観のなし崩しの空洞化に正面から克服する努力が足りなかった。九〇年代以後の保守攻勢に対して受け身になってしまった。曖昧な平和観を具体的に考えてみよう。「九条があつたからこれまでの日本は平和であった」のか？「日本を攻めてくるものに対して身構えるのはやむを得ない」のか？『拉致問題』があるから『朝鮮半島の非核化』を論じにくい」のか？と。

例えば、沖繩の人々の置かれてきた状況を忘れた本土人の自己欺瞞的平和観、朝鮮やベトナムやイラク等々の国の人々には到底納得されない他者感覚が欠如した日本人の平和観、有事法制・国民保護計画の下で戦争動員体制に組み込まれてしまった自分自身を認識できない深刻な平和観を克服しないとけない。九条をないがしろにする日米軍事同盟こそが世界の平和と安定に対する最大の脅威であることを認識することが第一歩だ。

### 私たちの運動のあり方に対する私見

## もうやめよう！日米安保条約

## グアムの海兵隊移転計画

——日本の皆さんに知ってほしいこと

ビクトリア・ロラ・レオン・ゲレロ

私は、ビクトリア・ロラ・レオン・ゲレロといます。グアム大学の教員であり、現在グアムで進行中の米軍増強計画を止めるためのいくつかの草の根団体に関わっています。また、チャモロ民族の自決権を求めて闘ってまいります。

「憲法九条も日米安保も」、「米軍基地は願い下げ」、非核三原則支持の複雑であまいな世論状況の中で、普天間基地移設問題と核密約問題は決して無関係ではないことを分かってもらう努力を怠らず、「核密約問題↓普天間基地移設問題↓在日米軍基地問題↓日米安保体制↓憲法9条」という議論の展開をするべき。

菅直人新首相は、「救国的自立外交私案」（『月刊現代』二〇〇二年八月号）で、非核3原則の2・5原則化を主張し、「見事に死ぬ」覚悟はあるかと「非武装」論を否定し、自衛隊を積極的に認め、核抑止力を肯定し、「北朝鮮脅威」論を述べ、米軍の活動がアジア太平洋地域の安全保障に資すると評価し、台湾有事の際に在日米軍の活動に制約を加えないといい、対国連軍事協力についてはPKO活動を提案している。信用できない。ただ、民主党の若手議員の憲法感覚には可能性が残っている。

浅井基文さんは、沖繩に米軍基地を押しつけておいて基地被害も基地加害もしらんふりして憲法九条と日米安保を良しとするヤマトの欺瞞性を厳しく突いた。そして、平和観をしっかりと考えることを強く私たちに迫った。「平和観も、本當にしっかりと情勢認識に基づいた平和観でない」とちよつと欠点をさらされたらすぐにへろへろになつちやうというような平和観では駄目だということだ。と。へろへろでない平和観を磨いて世論を変えていきたいと思う。

四〇〇〇年以上にわたって、私たちチャモロ民族はマリアナ諸島で生きてきました。中でもグアム——私たちは、グアハン（Guhan）と呼んでいます——は、三〇〇〇年以上、人々が自給自足的な暮らしをしてきた場所です。チャモロ民族は土地と海に深く結びつけられた民族であり、祖

先たちの精神がいまもまだ土地の中に生き長らえていると私たちは信じています。

しかし、この五〇〇年以上、グアハンはスペイン、アメリカ合衆国、そして第二次世界大戦中は日本と次々に植民地化され、土地や言葉、権力を奪われてきました。私たちの歴史は植民者たちの歴史書には出てきません。私たち自身が生存の証として歴史を伝えてきたのです。沖縄からグアムへの海兵隊移転は、私たちの闘いの歴史の新しい一章となるでしょう。

米国政府が最初にグアハンの米軍を増強すると発表したとき、八〇〇〇人の海兵隊員とその家族九〇〇〇人だけが移転してくとされてきました。しかし、昨年一月に国防総省が発表した環境アセスの素案では、海兵隊だけではなく、原子力空母の一時立ち寄り、陸軍のミサイル防衛部隊の駐留についても書かれていました。素案によると、移転事業がピークに達する二〇一四年に、グアハンの人口は八万人近く増えるとされているのです。これは現在の人口の約半分にも達します。島の構成は大きく変わり、さまざまな悪影響があるでしょう。

米環境保護庁は、グアムのインフラはこのような急激な人口増加には耐えられず、計画は不満足なものといわざるを得ない、としています。たとえば、水は最大で一日あたり六一〇万ガロン（約二万三〇〇〇キリットル）不足すると予測されています。

また、原子力空母を寄港させるために、米国は七一エーカー（約二八・七ヘクタール）のサンゴ礁を浚渫し破壊しようとしています。破壊

## もつやめよう！日米安保条約

# 辺野古の闘いと日米安保

「平和」の中身を問うべきだ

いまビクトリアさんの話を聞いて、グアムと沖縄は「マイノリティ」という意味で一緒だな、と感じました。沖縄の闘いは、グアムの人々と相通

されるサンゴ礁はアブラ湾のもつとも豊かなサンゴ礁であり、地元の漁民や観光産業への悪影響があるでしょう。

しかし、グアハンにおける最大の絶滅危惧種は、私たちチャモロ民族だと言つてもよいでしょう。八万人がなだれ込めば、チャモロはマイノリティになつてしまいます。

海兵隊員の射撃訓練場のために三九〇〇エーカー（約一五平方キロメートル）の土地を奪う計画もあります。その土地は原生的な森で、歴史的・文化的意味合いを持った土地でもあります。もしその神聖さがかき乱されることになったならば、それは私たちの文化的信条に著しく反することです。米国政府はすでに、島の三分の一を占領しているというのに。

この米軍増強計画は、私たちの日常生活にも後戻りできない変化を与える恐れがあります。沖縄の人々は、海兵隊による暴力と犯罪ゆえにそのブレゼンスに反対し続けてきました。だとすれば、グアハンでもいったいどんな違いがあるのでしょうか。

驚くべきことは、私たちにはこの決定における選択権がないということです。私たちの意見はまったく尊重されていないのですから、米軍増強が私たちによい影響を与えると想像することはできません。私たちは、私たちの将来を決める米国や日本の政治家を選ぶことはできませんが、あなたがた日本の市民にはその力があります。ぜひとも、日本政府の方針に異を唱えていただきたいのです。

（訳・まとめ／山口響）

安次富浩

じるものがあります。私たちは今まで、普天間基地はアメリカに持つて帰れ、新しい基地建設はノー、ということをしつと主張してきた。他府県のどこかに持つていけということを私たちは運動の中で言つていません。し